

TANKOKAI

淡交会

名古屋公演

(午後2時始)



能
狂言
舞踊子
乱
野
柑
蝉
丸
子
井上松次郎
宮
観世
瀬戸
洋子
合掌留
清和

能
能
狂言
舞踊子
子
久田三津子
丸
觀世
芳伸
替之型
久田三津子
子
井上松次郎

2019年
5月11日 土
開演 午後2時(開場 午後1時)
於 名古屋能楽堂
入場料(全自由席)
前売 7,000円 / 学生 2,500円 ※当日 500円増

番組

乱

柑

蝉

仕舞

難波

敦治

小鍛治

風髪

獨吟

久田川

観世能

江崎欽次朗

佐藤大坪

松本賢明

藤井千鶴子

(休憩十五分)

狂言

井上松次郎

狂言

鹿島俊裕

狂言

寺井公威

狂言

佐藤友彦

狂言

山伊三井上裕成之弘真

狂言

野野上山村田中

狂言

昌四貴雅司郎誠

狂言

野宮

狂言

狂言

狂言

狂言

狂言

狂言

狂言

狂言

能

洋子

江崎欽次朗

後見野村四郎

久田芳伸

大鼓

地謡

山崎山

木田畠

浩成尚美

之弘雪

大寺久山

西井田畠

礼久樂

勘綱子

義學命

(終了予定午後五時すぎ)

能

久田三津子

江崎欽次朗

佐藤大坪

松本賢明

藤井千鶴子

久河田総一郎

久河田総一郎

山久野伊中田村藤

雅勤昌裕志鷗司貴

乱(みだれ)

「みだれ」とは、囃子が特殊な演奏をし、テンポが不規則に変化する、緩急のついた舞です。囃々が酒に酔つてフワフワと舞い戯れるさまを強調する演出で、水上をすべる「流レ足」波を蹴立てる「乱レ足」、酒壺の中を見き込むような「極」などの型が加わり、

ほろ酔い機嫌で無邪気に舞い遊ぶ姿が表現されます。

この演出になつた場合、通常の小書のように演目名の下に小さく書き込まれるのではなく、演目名じたいが『囃々乱』または『乱』と表記され、それ 자체が独立した演目のように扱われます。

『囃々』は、現在ではオランウータンの和名ともなつていますが、本作に登場する囃々は空想上の動物で、酒好きの妖精という設定になつています。酒に酔つて気分の良くなつた姿を表すためか、本作専用の能面である『囃々』の面は童子の肌を赤くしたような意匠であり、その外、赤頭・赤地・唐織・緋大口(『囃々乱』のときは赤地半切)と、装束も赤一色で統一されています。

『囃々』は、通常演出では『中之舞』を舞うことになつているのですが、むしろ『乱』を舞う(『囃々乱』(『乱』)の形で上演されること)が多く、『囃々』といえば「乱」という印象すら持たれているほどです。

【あらすじ】延喜帝は第四皇子の蝉丸が盲目であることによつて、清貫に命じ、蝉丸を逢坂山に捨て、髪をおろし出家させます。高貴な衣服では盜賊にあう恐れがあると養(みの)と雨除けの笠を、また、道するべの杖を御手にもたせて、村雨のなか清貫が帰りますと、一人残された蝉丸は琵琶を抱いて泣き伏します。都から博雅三位という人が、蝉丸に藁屋を作つてさしあげ、必要があれば声をかけてくれといい、帰つてきます。一方、延喜帝逆立つている狂女。今は皇籍を離れ庶人に下っています。周りからは笑われている狂女ですが、心は清い方です。雨のなか、蝉丸が藁屋内で琵琶を弾いていますと、その気高い音を聞きつけて、逆髪が蝉丸に気付き藁屋の戸を開けて対面します。お互いに手をとつて、浅ましい身を嘆きます。しかし、やがて逆髪は、また何処かへと立ち去ります。

蝉丸(せみまる)

全席自由(当日500円増)

前売 7,000円 / 学生 2,500円

久田事務所 Tel.052-265-5158

Fax. 052-446-6025

Web申込み: <http://hisadakan-oh.com/>

◆名古屋能楽堂 Tel.052-231-0088

◆NSマネジメント株式会社 Tel.052-265-5391

他、出演能楽師も取り扱っておりますのでお問い合わせください。

入場料

お申込

